

## 12月定期調査 池は凍っています 05年12月18日(日)

今日は12月の定期調査です。保護池の水面は完全に氷結していました。なかなか調査する気にはなりませんね。まずは薪拾いからはじめました。よーし、落ち葉を集めて焼き芋をしようということで、サツマイモとジャガイモ・アルミホイルの買出しです。保護池の周りはこの数日間の寒波で、エノキの落ち葉でいっぱいです。意外と葦の枯れ草がよく燃えるのです。そのうちにみんなやる気が出てきたみたいで、学生たちは池の中です。松葉君のお父さんのさしいれで豚汁も届きました。今日の昼食は豚汁と焼きもです。これからの調査はなかなかきついですけど何ともいえない快感がありますよ。さーあ、いっちょやるか。



**水温2℃ドブガイとニッポンバラタナゴの採集** 05年12月18日(日)

水温2℃、ドブガイとニッポンバラタナゴの採集です。この水温ではたも網で採るのが一番です。ドブガイもニッポンバラタナゴも深みに集まっています。ゆっくりたも網を引くとタナゴが入ってくるのです。ドブガイも深みに移動してます。水温の変動がもっとも少ない場所に集まっているのでしょうかね。しかし冷たいですよ。かなりドブガイにはナンバーをつけたのですが、ナンバーなしがたくさんでできます。今年のドブガイの繁殖個体はなかなか推定できませんね。やはり全数調査するしかありませんね。



**Dr. Carl Smith 現場視察** 05年07月09日(土)

ヨーロッパタナゴの生態を研究されているカール・スミス博士がニッポンバラタナゴ高安研究会を訪問されました。穏やかで思慮深く行動的な紳士です。

あいにくの天候で、フィールドで産卵行動などを見ることはできませんでした。スミス博士は中学生の森田君の質問にも気さくに英語で答えてくださっていました。私たちにもヨーロッパタナゴの写真や動画を見せながら、繁殖生態など分かりやすく解説してくれました。

最近の博士の研究は、雄間競争や精子競争そして雌選択など行動生態学の研究が多く、ほんとうに私の研究と共通した内容ばかりでしたので、直接実験方法などを効くことができ、楽しい一時を過ごすことができました。一度、イギリスの彼の研究所を訪れたいとなりました。





## タイリクバラタナゴとニッポンバラタナゴの雑種 05年05月05日(木)

高安地域にもタイリクバラタナゴとニッポンバラタナゴの雑種個体群が一部のため池で生息しています。雄はほんとうにきれいな婚姻色が出てますね。しかし、タイリクバラタナゴはニッポンバラタナゴと容易に交雑する外来性の亜種として、九州や四国でも大問題になっています。ほとんど場合が、養魚のために移植した他の魚に混じって移入されたのですからし方がないことですかね。当然、魚には何の罪もありません。

高安地域では、20年くらい前には、心合寺山古墳の溜池にたくさんの雑種個体が生息していたのですが、外来魚のブルーギルとブラックバスが放流されてから、まったく姿を消してしまいました。昨年、地域の人たちとかいぼりをしたときも、量的には大きなヘラブナが8割、ブルーギルとブラックバスが1割ずつぐらい確認され、小魚はブルーギルの稚魚以外ほとんどに確認できませんでした。最終的には雑食性のブルーギルが最後まで残るような気がします。

高安地区の水環境はさらに悪化するばかりで、今では、これらの外来種も棲めない水環境になってきています。何をおいても、まずは地域の水環境をよくすることが肝心ですね。ため池の水環境がよくなれば、それぞれの魚種を人為的に棲み分けさせることもできるかもしれませんね。

釣りをする人、養魚をする人、魚の保護をする人、観賞用に淡水魚を捕獲する人、いろいろな人が高安地域の自然の恩恵を受けています。これらの自然環境は地元高安地域の花卉栽培や農業と共に維持されてきたのですから、皆さんも、高安の里地里やまの自然環境を少しでも長く維持できるように高安地域の環境保全活動に協力してくださいね。

